

古里地区説明会 (1/15)

質問 (要望)		回答
河川	具体的な4章について道路・農地など原状復旧は国の基準だと思うが、それ以上やるつもりがあるのか教えて欲しい。	(防災力の向上については) 国、県、市町村が連携し取り組んでいる「緊急プロジェクト」で、これからどんな対策を行っていくかをとりまとめている。その対策を復興計画の中に盛り込んでいきたい。
河川	今回の水害は、千曲川の増水によるものであって、立ヶ花を広げなければ解決しない。どの程度まで踏み込むのか。	「緊急プロジェクト」の中で、遊水地の整備など千曲川の抜本的な治水対策が盛り込まれる。これら対策を復興計画に盛り込みたい。立ヶ花の掘削について国は検討を進めている。
河川	防災力の向上として、降雨量(一時間当たりの降雨量)、耐水値の基本的な数字の見直しをして欲しい。	長野市の排水路整備は、時間で36.5mmを基準として整備を進めている。毎年、約10億の予算で浸水被害が発生しているところを重点的に整備しているが、整備率は33%という低い状況にある。現在、古牧地区において、平成24年の浸水被害を受け、既往最大降雨(平成24年の降雨)に対応した事業を進めている。
河川	貯水池などの設置を検討して欲しい。	国、県、市町村で取り組んでいる「緊急プロジェクト」で検討する。
支川	田子川と浅川は越水の危険はあるため、排水機場のポンプの性能を上げるだけでなく抜本的な治水対策を考えて欲しい。	浅川の支川(駒沢川、新田川)の改修については、引き続き事業を進めていくと県から聞いている。
住宅支援	高齢者用の貸付や資金の関係などの制度を教えて欲しい。	最大300万円支給される生活再建支援金がある。併せて、復興住宅支援として住宅金融公庫の低融資、リバースモーゲージなどの制度がある。公費解体に向けた窓口で、生活再建に向けたパンフレットを配布している。
情報	情報発信方法に課題	「復興だより」を郵送で届ける。多様な方法で情報を伝える。
情報	防災無線が聞き取れない。個別で受信できることを考えて欲しい。	各地域の防災関係者に個別受信機を貸与している。無線の他にホームページ、防災メールなどにより避難の情報等発信をしている。防災行政無線のデジタル化を予定している。音質が向上し直線で音が届く距離が300mから600mになる。また、スマホで音声と文字情報として確認できるアプリを作っている。半鐘の音が避難に役立ったと聞いているので、情報発信の際に取り入れられるか検討する。
情報	停電に対応した情報などの伝達方法は。	防災無線の屋内スピーカは、柱の裏に操作盤がありバッテリーを備え付けてあるため、停電時でも対応できる。
情報	行政と各行政区の災害情報の共有を図っていただきたい。	検討する。
農業	借地でリング等栽培をしているが、泥出し、農機具の補助について教えて欲しい。	被災農地は、5cm以上の堆積した農地を復旧工事の対象。農機具は、農業政策課で対応。本人負担は1割。
排水機場	浅川の排水機場の能力アップなど含めて検討して欲しい。	県でも浅川の治水対策を進めると聞いている。機場の能力アップも併せて要望していく。
排水機場	浅川の内水対策について、今のポンプ式で良いのか。数を増やすだけで良いのか。方式自体を変えることも検討して欲しい。	内水氾濫対策のため、県の総合治水対策の中で必要な水量の計算をしている。処理能力をあげることを聞いている。
避難所	高齢者など車の運転ができない方の避難所の設置箇所など考えて欲しい。	-

質 問 (要 望)		回 答
福祉	見守り、要支援者の名簿の管理ができていない。	ささえあいセンターをつくり相談員を巡回し、困りごとを承っている。聞いた内容をそれぞれの支援機関や民生委員につなげ要支援者を管理している。
連携	中部電力と協定を結んで停電が続かないような方策を考えて欲しい。	-